

変更前
変更後

市川南ポンプ場大規模雨水処理施設整備事業（変更）

（様式１）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	市川南地区は、急速な都市化の進展等により、雨水が浸透しにくくなった結果、浸水被害が頻発するようになりました。1つの区域であった市川南地区約541haを排水能力毎秒23m³の排水機場1箇所排水する計画としていましたが、外環道路事業により排水区が分断されることを契機とし、この地区の整備計画を見直し、3つの区域に分割し、新たに大和田ポンプ場と市川南ポンプ場を整備する計画としました。 大和田ポンプ場は約244haの区域の雨水を計画排水能力毎秒27m³で排水するポンプ場で平成29年4月より供用を開始しており、市川南ポンプ場は令和9年度の供用開始を目途に事業を実施しております。 なお、市川南地区においては平成25年10月に時間最大45mm/hの豪雨を記録し、床上浸水21戸、床下浸水46戸の被害が発生。また、平成以降では10回以上の浸水が発生し、慢性的な浸水被害が発生しています。
整備目標	① 本計画における対象降雨 ・本計画における対象降雨：50mm/hr ・目標とする理由：5年確率降雨 ・ハード整備による整備水準の目標:50mm／hr ② 目標設定 i)生命の保護の観点：当該排水区に存在する高齢者・障害者等要配慮者関連施設132箇所の床上浸水を防止する。 ii)都市機能の確保の観点：緊急輸送路における道路冠水を防止する。 iii)個人財産の保護の観点：家屋の床上・床下浸水を防止する。 iv)その他：特になし 備考)浸水対策の観点（生命の保護，都市機能の確保，個人財産の保護等）から目標設定を行い，その内容について具体的に記述 ③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について i)ハード対策 施設整備により 50mm/h の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。 ii)ソフト対策及び自助 施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨 60mm/h の降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップ作成・公表などの情報提供、地域住民等による止水板設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害をできるだけ小さくする。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	・ 有 (平成18年3月策定済み) ・ 策定 (令和3年3月末策定)			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・ 雨水ポンプ場の整備 排水能力 10m³/s ・ 流入管の整備 φ1,710 L=630m ・ 排水樋管の整備
			下水道管理者以外	
		ソフト対策	下水道管理者	・ 内水ハザードマップの作成・公表 ・ 降雨情報の収集と提供 ・ 水位観測情報の提供 ・ 土のうステーションの開設
			下水道管理者以外	
	自助	ハード対策		・ 止水板の設置補助(市川市あんしん住宅助成事業補助金交付要綱)3箇所 ・ 各戸貯留浸透施設(市川市雨水浸透施設設置等助成金交付要綱) 延べ721戸
		ソフト対策		

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

* 下水道浸水被害軽減総合事業に該当する場合、既存の施設調書を別途添付すること

年度計画（百万円）

名称	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
雨水管渠	420							420
雨水貯留管								
市川南ポンプ場	83	1,484	1,630	440	1,420	1,765 1,202	— 827	6,822 7,086
計	503	1,484	1,630	440	1,420	1,765 1,202	— 827	7,242 7,506

備考) 事業内容に位置づけた施設について年割額（事業費）を記述。

整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<事業評価の内容>（他の交付金事業を含む評価内容） 被害額：１，５３７億円が削減される。 B／C：４．４９６ 経済的内部収益率：１０％以上 ソフト対策，自助の整備効果等： 内水ハザードマップによる情報提供及び止水板の整備を併せて行い，土のうステーションの設置等を行う。
放流先河川との調整状況	
その他	

(参考図面)

1. 使用図面

5,000～10,000 分の 1 程度で計画内容がわかるようにする。

2. 図面記載内容

記載内容	色別	適用
貯留施設 施工済 計画期間内施工予定 集水区域	黒 赤 青	貯留施設を 2～3mm の実践で書く。 施設名を記入。 集水区域を 5mm 幅程度で囲む。施工済の場合は黒で全体を薄く塗りつぶす。
浸透施設 施工済 計画期間内施工予定 整備区域	黒 赤 青	対象区域を 5mm 幅程度で囲む。 施設名を記入。 対象区域を 5mm 幅程度で囲む。
ポンプ施設 施工済 計画期間内施工予定	黒 赤	直径 5mm の円に P で表現。 色で塗りつぶす。
雨水又は合流管渠 施工済 計画期間内施工予定	茶 橙	昭和 46 年 10 月 9 日付建設省告示第 1705 号の別表に定める基準に適合する管渠を 1mm の実線で書く。 管渠名を記入。
計画対象区域界	桃	2mm の実線。
① 駅	緑	色で塗りつぶす。 施設名を記入。
② 災害対策基本法に基づく地域防災計画に位置付けられた施設(緊急輸送道路、防災拠点等)		
③ 国の防災関係機関や県庁、市役所等の施設		
④ 高齢者・障害者等要配慮者関連施設		
⑤ 床上浸水被害の未解消地区	水色	水色で全体を薄く塗りつぶす。
⑥ 下水道管理者以外の主体との連携により行われている整備	黄色	黄色で全体を薄く塗りつぶし、事業主体と事業名を記載。
⑦ 防水ゲート、止水板又は逆流防止施設		
⑧ 各戸貯留浸透施設		

[illegible]

- 縮尺 1 : 6000
- 